

作成日 2018年12月13日
改訂日 2025年12月2日
改訂版 3

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称 ソイケア
供給者の会社名 株式会社理研グリーン
住所 東京都台東区東上野四丁目8番1号
担当部門 開発部企画開発課
電話番号 03-6802-8587
ファックス番号 03-6802-8303
緊急連絡電話番号 同上
推奨用途及び使用上の制限 芝生用バイオスティミュラント資材

2. 危険有害性の要約

GHS分類
健康に対する有害性 皮膚腐食性/刺激性 区分3
(注) 記載なきGHS分類区分：区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

絵表示 (ピクトグラム)	
注意喚起語	警告
危険有害性情報	軽度の皮膚刺激
注意書き	
安全対策	取扱い後は手や顔をよく洗うこと。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置	皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
保管	元の容器にのみ保管すること。
廃棄	内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。
他の危険有害性	

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
化学名又は一般名 大豆たんぱく質加水分解物
別名

組成物質名	濃度または濃度範囲	CAS登録番号	化審法官報公示 整理番号	安衛法官報公示 整理番号
水	94.1%	7732-18-5		
大豆たんぱく質加水分解物	5.0%			
水酸化ナトリウム	0.9%	1310-73-2	(1)-410	

4. 応急措置

吸入した場合 直ちに被曝者を新鮮な空気のある場所に移動させる。症状が続く場合は、医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合 汚染源から被曝者を移動させる。汚染された衣類を取り除く。皮膚を石鹼と水で直ちに洗浄する。洗浄後も刺激が続く場合は医師の診察を受けること。
眼に入った場合 被害者を直ちに汚染源から移動させる。コンタクトレンズを外してから目を洗浄する。まぶたを開けながら十分な水で目を洗浄する。違和感が続く場合は医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合 直ちに口をすすぐ。直ちに医師の診察を受けること。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項 個人用保護具を着用すること。
医師に対する特別な注意事項

5. 火災時の措置			
適切な消火剤	水スプレー（霧状）、二酸化炭素（CO ₂ ）、泡、消火粉、砂		
使ってはならない消火剤	情報なし		
火災時の特有の危険有害性	可燃性ではない。		
特有の消火方法	周囲を避難させる。露出した容器を冷却するために水スプレーまたは霧を使用する。消火液を堰き止めて回収する。消火水が環境に流出しないようにする。		
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	必要に応じて個人用保護具を使用する。消防士は自給式呼吸器および完全な消防用装備を着用すること。		
6. 漏出時の措置			
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	屋内では作業終了まで十分な換気を行う。ロープなどを使用して関係者以外の立ち入りを禁止する。作業中は適切な保護具を着用し、皮膚への付着やガスの吸入を避ける。風上から作業し、風下の人々を退避させる。		
環境に対する注意事項	汚染された廃水を適切に処理せずに環境に放出しないよう注意する。		
封じ込め及び浄化の方法及び機材	乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できるから容器に回収する。		
二次災害の防止策	汚染された物品や区域を環境規制を遵守しながらよく洗浄する。		
7. 取扱い及び保管上の注意			
取扱い	技術的対策 安全取扱い注意事項 接触回避 衛生対策	酸性物質との接触を避ける。十分な換気を行うこと。 個人用保護具を着用すること。 蒸気を吸入しないこと。皮膚、目、衣類への接触を避けること。環境への放出を避けること。使用後は容器を密閉すること。 取り扱い後は手や顔を洗い、うがいをすること。指定された場所以外では喫煙や飲食をしないこと。汚染された保護具や手袋を休憩所に持ち込まないこと。緊急時以外の関係者以外の取り扱い区域への立ち入りを禁止すること。	
保管	安全な保管条件 安全な容器包装材料	涼しく、換気の良い場所に保管し、直射日光を避けること。容器はしっかりと密閉すること。 元の容器にのみ保管すること。	
8. ばく露防止及び保護措置			
ばく露限界			
化学名	日本産業衛生学会	管理濃度 作業環境評価基準	米国産業衛生専門家会議 (ACGIH)
水酸化ナトリウム 1310-73-2	Ceiling: 2mg/m ³	N/A	Ceiling: 2mg/m ³
設備対策	安全シャワー設備、および手洗い・洗眼設備を設置すること。それらの位置を明確に表示すること。十分な換気設備を設けること。		
保護具	呼吸用保護具 手の保護具 眼、顔面の保護具 皮膚及び身体の保護具	保護マスク 保護手袋 保護眼鏡または化学防護ゴーグル 長袖作業服	
特別な注意事項			
9. 物理的及び化学的性質			
物理的状態	物理状態	液体	
	色	褐色	
	臭い	特有な臭いがある	
融点・凝固点		データなし	
沸点又は初留点及び沸点範囲		データなし	
可燃性		データなし	
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		データなし	
引火点		データなし	
自然発火点		データなし	
分解温度		データなし	
pH		10～11	
動粘性率		データなし	

溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他データ	データなし
10. 安定性及び反応性	
反応性	データなし
化学的安定性	通常の条件下では安定
危険有害反応可能性	通常の使用条件下では危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	極端な温度及び直射日光
混触危険物質	酸類、酸性物質
危険有害な分解生成物	情報なし
11. 有害性情報	
急性毒性（経口）	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
急性毒性（経皮）	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない（分類対象外）
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
皮膚腐食性／刺激性	区分3（H316 軽度の皮膚刺激）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
呼吸器感作性	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
皮膚感作性	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
生殖細胞変異原性	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
発がん性	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
生殖毒性	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
生殖毒性・授乳影響	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
誤えん有害性	分類できない（入手可能なデータに基づき、分類基準を満たさない）
12. 環境影響情報	
生態毒性	水生環境有害性（短期/急性） 分類できない 水生環境有害性（長期/慢性） 分類できない
残留性・分解性	利用可能な情報はない
生態蓄積性	利用可能な情報はない
土壤中の移動性	利用可能な情報はない
オゾン層への有害性	利用可能な情報はない
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。
14. 輸送上の注意	
国連番号	該当なし
品名（国連輸送名）	該当なし
国連分類（輸送における危険有害性）	該当なし
副次危険	
容器等級	該当なし
海洋汚染物質	該当なし

その他の安全対策

輸送時には容器の漏れがないことを確認し、荷物が転倒・落下・損傷しないように積載すること。荷物の落下防止を確実にすること。

15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
大気汚染防止法	非該当
水質汚濁防止法	指定物質 (法第2条第4項、施行令第3条の3) : 水酸化ナトリウム

16. その他の情報

参照ホームページ等 NITE : 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

免責事項 この情報は新しい知見および試験により改訂されることがあります。また、記載事項は通常の実施を前提としたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上お取扱い願います。また、弊社は本記載内容について十分注意を払っておりますが、その内容を保証するものではありません。本SDSはJIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。